

第2学年 生活科学習指導案

対象：第2学年1組21名

授業者：銀川 かれん

1 単元名 「まちのすてき つたえたい」

2 単元目標

これまでの町探検で気付いたことや、町の人々の様子、多くの人との関わりや交流についてまとめ、身近な人たちと伝え合う。また、自分たちの町のよさに気づき、町やそこに住む人々への愛着を一層深める。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>ア 季節を通して町の様子が分かり、町のいろいろな「すてき」に気付いている。</p> <p>イ 町への親しみや愛着が増したり、人々と適切に交流することができるようになったりした自分自身の成長に気付いている。</p> <p>ウ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>ア 町探検で気付いた町のよさや工夫、町の人々の願いを考えている。</p> <p>イ 伝えたいことが相手に伝わるかどうかを予想しながら表現方法を考え、伝える内容や方法を決めている。</p> <p>ウ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを聞き取り、話の内容を捉えて感想を考え、発表している。</p>	<p>ア 「まちのすてき」を伝えたいという思いをもって、町探検で見つけたことや分かったことを自分なりに表現したり、伝えようとしたりしようとしている。</p> <p>イ これからも町の人々や場所とすすんで関わり、自分の生活を楽しくしようとしている。</p> <p>ウ 問題の発見や解決のために自分や他者のよさを生かしながら、まちのすてきを伝える展示や発表の方法を協力して考えたり、準備したりしようとしている。</p>

4 単元について

(1) 指導内容

児童は「とび出せ！町のたんけんたい」や「もっと知りたいたんけんたい」の町探検の学習を通して、季節感を味わったり地域の人々とのふれあいを深めてきたりしている。本単元では、地域で関わった人のことや心に残った出来事を、これまでの探検カードや記録カードで振り返り、想起するようにする。その中で、地域で関わった人とのことやその関わりを通して分かったこと、心に残った出来事を友達とまとめる。更に、まとめたものを1年生に伝えるというものである。このような活動を通して、地域の人々とのふれあいから地域やそこに住む人々の素晴らしさを感じ、よりいっそう地域への愛着をもたせたい。また、いろいろな体験や人々とのふれあいを通して自信を深めたり、友達と話し合っ発表内容を決めたり発表の準備をしたりと協力して取り組むことを通して友達のよさに気づき、より楽しく豊かな生活を創り上げていくことがで

きるようにしていきたい。

(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

「まちのすてき」について考え、自分の住む地域への愛着をもつということは、おおたの未来づくりの「地域の創生」につながっていくことであると考え、本単元を設定した。また、本単元の中では自分の考えをより深めるために友達と話し合っていく。そのために「話す・聞く」ための力を国語科や学級活動での話合いの学習と往還しながらすすめていく。話合いは創造的な資質・能力を身に着けるための大きな土台であるとも考えた。

(3) キャリア教育とのつながりについて

本単元では「人間関係形成能力・社会形成能力」と「課題対応能力」の育成を図る。友達の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるようにするとともに、社会の一員として、自分の役割を果たしつつ、他者と協力してすすんで社会に働きかけることができるようにする。また、自分で課題を発見し、計画を立ててその課題を処理し、解決できるようにする。

(4) カリキュラム・マネジメントについて

- ・国語科「あったらいいな、こんなもの」で学習した、相手からの質問を受けて自身の考えや伝えたいことをより深めていくということをグループでの話合いの際に生かす。また、「ともだちはどこかな」や「ことばでみちあんない」の学習を生かし相手意識をもって自分の考えを深めさせる。
- ・道徳科「ありがたの手紙」と関連させ、町探検でお世話になった方への感謝の気持ちを深める。
- ・学校行事「未来づくりフェスティバル」、学級活動(1)での話合い活動や集会活動の経験を基に、今回の交流会の計画、準備を行う。

5 児童の実態

本単元の学習の前に町探検の学習を行い、自分たちの住む町の施設や商店に実際に訪れて関係する方からお話を聞いたりインタビューをしたりしてきた。このことより、児童は自分たちのまちのすてきなところやよさについて考えるとともに、そのよさを多くの人に伝えたいという思いを抱いている。本単元では、そのよさを伝えるための方法や手段について考えさせていく。伝える方法をこどもたちが自然に想像できるように、本単元までの生活科の様々な単元におけるまとめの学習の中でその方法を提示し、取り組ませてきた。例えば「新聞づくり」「ポスター」「パンフレット」「劇」などである。これらの経験値を生かし、町のよさを伝えるためにはどの方法がよいのか自分たちでその理由とともに考えることができるようにする。

6 指導の手だて

(1) 創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

国語科や学級活動(1)における話合い活動を生かしてグループでの話合い活動を行うことを通して、分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術に関する知識及び技能を習得する。

(2) キャリア教育の4つの能力を育成するために

グループ活動を通し、課題について友達と話し合ったり意見を伝え合ったりすることで、それぞれの考えを理解したり自分の考えを正しく伝えることができるようにする。また、自分たちの町のよさについて考え

ることで、社会の一員としての自分たちの存在や他者と協力していくことの大切さについて気付くことで「人間関係形成・社会形成能力」を形成していく。

「まちのすてき」を発表するにあたり、同じような「すてき」に気付いた児童でグループにすることで、なぜそれを「すてき」としたのかの理由を比較して町のよさについての考え方・捉え方を深められるようにする。また、本単元の学習に関わる前单元「とび出せ！まちのたんけんたい」より、気付いた町のよさを周りの人たちに発表するという学習の見通しをもたせることで、自分で課題を発見し計画立て、その課題を処理し解決していく課題対応能力を育成する。

(3) ICT等の活用

児童のタブレット端末を活用し、今までの町探検で見つけたものを写真に残すことができるようにする。また、町探検の振り返りなどはタブレット上のワークシートにも入力することで、今までの学習の歩みをすぐに振り返ることができるようにすると共に、全体画面で児童の考えを共有できるようにする。

7 指導計画

次	時	○主な学習活動 ★指導上の留意点	◆評価規準 【観点】(評価方法)
1	1 2 3	○「まちのすてき」を集める。 ・これまでの探検カードや絵地図などの作品を整理する。 ・町探検で気付いたことを振り返る。 ・自分の見つけた「まちのすてき」を考え、紹介し合う。 ★タブレット端末を活用し、今までの学びの積み重ねや町探検の経験をより具体的に振り返らせる。 ★町探検などを通し地域の人と関わり心に残った出来事を「まちのすてき」と定義する。	◆町のいろいろなすてきに気付いている。 【知】ア(タブレット端末上のワークシート) 【思】ア(観察・児童の発言・制作物)
2	4 5 (本時) 6	○「まちのすてき」を伝える準備をする。 ・自分の伝えたい内容や伝える相手に適した伝え方を考える。 ・「まちのすてき」について、グループで相談し発表内容を考え、自分たちなりの方法でまとめる。 ・発表会の準備や練習をする。 ★発表グループは児童それぞれが見つけた「まちのすてき」の内容で分けるが、他のグループと交流をしたり今までの発表に関する活動を振り返ったりして、様々な視点から思考できるようにする。 ★思考を深めることができるようにタブレット端末と紙のワークシートの両方を、目的に合わせて利用する。 ★町の人の願い・おすすめ・工夫など、自分たちの住む町のよさを、伝えたい人や伝えたい内容に合わせて、工夫してまとめることができるようにする。	◆伝えたいことが相手に伝わるかどうか予想しながら、伝える内容や方法を決めている。 【思】イ(観察・児童の発言・制作物) ◆町探検で気付いたことや多くの人と交流をもてたことを友達や町の人に伝えようとしている。 【知】ウ(観察・児童の発言・制作物) 【主】ウ(発表)
3	7	○「まちのすてき」発表会をする。 ・「まちのすてき」発表会の準備や最終確認をする。 ・「まちのすてき」発表会をする。 ・招待した1年生からの感想を受け学習を振り返る。 ★これまでの探検のまとめとして、個人やグループで展示	◆「まちのすてき」を多くの人に広めたいという思いをもって、展示や発表を工夫し、みんなで発表会を楽しもうとしている。

3	8 9 10	<p>や発表の方法を工夫し、1年生とともに町のよさに改めて気付くことができるように助言する。</p> <p>★発表に使用した制作物は発表後も掲示をしたり校内で活用したりして、町のよさについて継続して意識できるようにする。また、発表を作り上げた達成感を味わい、次の活動への意欲付けをする。</p>	<p>【主】ア（児童の発言・発表）</p> <p>【思】ウ（児童の発言・発表）</p> <p>◆町への親しみや愛着が増したり、人々と適切に交流することができるようになったりした自分自身の成長に気付いている。</p> <p>【知】イ（ワークシート）</p> <p>【主】イ（観察・児童の発言・制作物）</p>
---	--------------	---	---

8 本時の指導（全10時間中の第5時）

（1）目標

町の人々の願い・おすすめ・工夫などの自分たちの住む町のよさを、伝えたい人や伝えたい内容に合わせて、どのように発表したらよいか考えることができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（評価方法） ★指導上の留意点
導入	○それぞれで感じた「まちのすてき」について、想起する。	★「まちのすてき」とは町探検などを通し地域の人と関わり心に残った出来事であることを確認する。
1年生に伝えたい「まちのすてき」について考えよう。		
展開	○どんなことを書いたら「まちのすてき」が伝わるか学級全体やグループで話し合いながら考え、発表に向けた制作物を作る。 ・町探検で分かったことについて。 ・町の人々の願いについて。 ・1年生が知らないこと。 ・クイズにして伝えたい。	★前時に決めた表現方法を用いることを伝える。 ★伝える相手が1年生であることを確認する。 ★発表内容を考えさせるが、クイズや4コマ漫画などの表現方法への思いが児童から見られた際は全体で共有する。 ★「まちのすてき」の内容で分けたグループだけでなく、他のグループとも交流をさせて様々な視点から思考できるようにする。 ◆伝えたいことが相手に伝わるかどうかを予想しながら、伝える内容や方法を決定している。 【思】イ（観察・発表に向けた制作物）
振り返り	○今日決まったことを発表する。 ○次時への見通しをもつ。	★今日の学習から、さらに自分たちにも工夫できることがないか気付くことができるように助言する。